

日本植物分類学会第13回大会公開シンポジウム

阿蘇の草原フロラを探る

～成立過程・大陸系遺存種・草原再生～

日時

平成26年3月23日(日)

13:00～16:00

(12:30より受付開始)

場所

熊本大学黒髪南キャンパス

工学部2号館223室(裏面参照)

熊本市中央区黒髪2-39-1

学内には自家用車の乗り入れはできません。
公共機関を利用してお越しください。また
参加登録等は不要ですが、会場は定員
250人となっていますので、ご了承ください。

阿蘇カルデラとその周辺域にはわが国最大級の草原が広がっており、いわゆる満鮮要素と呼ばれる大陸系遺存植物が多く見られる興味深い場所です。本シンポでは、阿蘇をキーワードとして様々な研究や活動をされている方々にご講演いただき、阿蘇の草原フロラの特徴を、植物分類学や植物地理学、古植生学的な角度から改めて見直してみたいと思います。一方、阿蘇では近年人間活動の変化により草原面積が激減し、多くの草原植物が絶滅危惧植物としてリストアップされています。そうした中で、草原再生の活動を進めてこられた方にもご講演いただき、現状と問題点について話題をご提供して頂きます。本シンポをとおして、残された課題や問題点を整理し、今後の研究に向けた一助となればと期待しています。会員・非会員を問わず、大会参加者以外も無料で来聴できますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

プログラム

司会進行 藤井 紀行(熊本大・院・自然科学)

13:00 南谷 忠志(宮崎植物研究会)

阿蘇地域における植物相の特徴

13:35 長谷 義隆(御所浦白亜紀資料館)

阿蘇の最終氷期以降の植生変遷と草原の成立要因

14:10 休憩

14:20 仲川 邦広(東農大・院・農)・佐藤 千芳(熊本植物研)・新井 玲奈(北大・院・農)・宮本太(東農大・院・農)・三井 裕樹(東農大・院・農)

なぜ阿蘇に?いつ阿蘇に?半自然草原に生きる遺存植物の歴史を探る—アソタカラコウ(キク科)を例に—

14:55 瀬井 純雄(阿蘇花野協会)・高沢 智嗣(熊本大・院・自然科学)・藤井 紀行(熊本大・院・自然科学)

阿蘇における草原植物の現状と草原再生—スギ伐採林跡地からの草原再生—

15:30 総合討論

入場
無料

問い合わせ先:

日本植物分類学会第13回大会実行委員会

大会実行委員長 副島 顕子

Tel & Fax: 096-342-3448

E-mail: bunrui@sci.kumamoto-u.ac.jp

主催: 日本植物分類学会第13回大会実行委員会

共催: 熊本大学理学部

後援: 熊本大学

日本植物分類学会第13回大会 公開シンポジウム会場へのアクセス方法

会場である熊本大学黒髪南キャンパスへの公共交通機関は以下の通りです。大学構内への自家用車の乗り入れはできませんのでご注意ください。

交通センターから：

産交バスもしくは電鉄バスの「楠団地」「武蔵ヶ丘」または「竜田口駅」行き（子飼・熊本大学前経由）に乗り、「熊本大学前」で下車。約15分。交通センター近辺にある「通町筋」や「水道町」などのバス停からも同様。

JR熊本駅から：

JR西口（新幹線口）ではなく、東口（白川口）のバス停から、産交バスもしくは電鉄バスの「楠団地」「武蔵ヶ丘」または「竜田口駅」行き（子飼・熊本大学前経由）に乗り、「熊本大学前」下車。約25分。直通バスの本数が少ないので、「通町筋」または「水道町」で乗り換えてもよい。

詳しいアクセスは下記のリンクをご参照ください。

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou/access>

バス停「熊本大学前」



熊本大学黒髪南キャンパスの地図
公開シンポジウム会場は19番の棟（工学部2号館）です。